



後継経営者が感じた 事業承継のタイミング

経営者にとって、いつの時点で後継者に事業を引き継ぐかを決めるのは、簡単ではないといわれます。ここでは、そんな経営者の方々に、事業承継を行う上で参考になるかもしれないデータをご紹介します。

□ ちょうど良いと感じる割合は40代が最高

中小企業庁が4月に発表した2013年版中小企業白書(※)から、現経営者が事業承継をした年齢別に承継のタイミングについてどう思ったかを聞いた結果は右表の通りです。

どの年齢階級でも「ちょうど良い時期だった」という割合が最も高くなっています。ただし、その割合は40～49歳で最も高く、73.3%となりました。また50歳以上よりも40歳未満の年齢の方が、「ちょうど良い時期だった」とする割合が高くなっています。

一方、承継時の年齢が高いほど、事業承継の時期は「もっと早い時期の方が良かった」とする割合が高いことがわかります。

現経営者の事業承継時の年齢別事業承継のタイミング

年齢階級	回答者数	もっと遅い時期の方が良かった	ちょうど良い時期だった	もっと早い時期の方が良かった
	(人)	(%)		
40歳未満	514	21.6	69.1	9.3
40～49歳	576	5.7	73.3	21.0
50～59歳	340	6.2	56.8	37.1
60歳以上	176	6.8	50.6	42.6

中小企業庁「2013年版中小企業白書」より作成

□ 自社にとっての最適な事業承継の時期は？

また上記白書から、上表での回答別に平均年齢を求めると、右表のようになります。

ちょうど良いと回答した経営者の平均年齢は43.7歳、もっと早い時期の方が良かったとする経営者の平均年齢は50.4歳となっています。このデータをみる限り、後継者からみたちょうど良い事業承継年齢は40代で、50代になると「もっと早い時期の方が良かった」とする割合が高くなっていくといえそうです。

とはいえ企業にはそれぞれ事情はあり、譲る側である現経営者の意向もあります。現経営者からみた後継者は頼りないと感じる部分が多く、事業承継が遅くなるというケースは少なくありません。事業承継を考えなくてはならない時期に来ている企業はもちろん、まだ必要ない企業にとっても、自社にとっての事業承継の最適な時期を考えておくことは、スムーズな事業承継を進めるにあたって、非常に重要といえるでしょう。

現経営者の事業承継時の平均年齢

年齢	(歳)	もっと遅い時期の方が良かった	ちょうど良い時期だった	もっと早い時期の方が良かった
		38.5	43.7	50.4
回答数	(人)	177	1,059	370

中小企業庁「2013年版中小企業白書」より作成

(※) 中小企業庁2013年版中小企業白書126ページの中小企業庁委託「中小企業の事業承継に関するアンケート調査」(2012年11月、(株)野村総合研究所)のデータです。詳細は以下の中小企業庁サイトにある中小企業白書で確認できます。

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H25/PDF/h25_pdf_mokuji.html